

安全装備品と消防団活動

鶴岡市消防団

1 はじめに

鶴岡市は、山形県の西北部にある庄内平野の南部に位置し、東に霊峰月山・羽黒山・湯殿山などの美しい山々が連なり、西は42kmにわたる岩礁と砂丘の日本海に面し、南は新潟県村上市、北は港都酒田市に接しています。

平成17年10月に1市・4町・1村が合併し新鶴岡市が誕生しました。人口は、約143,000人、面積は1,311.49km²で全体の約87%が山林・農用地となっています。

庄内平野は、「つや姫」や「はえぬき」のブランド優良米・「だだちゃ豆」の生産地で知ら

れるとともに、漁業も盛んで、冬は「寒ダラ祭り」で賑わいます。

2 鶴岡市消防団の紹介

鶴岡市消防団は、寛文11年（1671年）に「町火消組」が組織されたことが鶴岡消防団の始まりとされ、「いろは組」など改称しながら昭和23年に鶴岡市消防団が組織されました。

その後、市町村合併に伴い、平成20年4月からそれまでの鶴岡市、藤島町、羽黒町、櫛引町、朝日村、温海町の各消防団が連合消防団体制を経て合併しました。現在は9方面隊、40分団、



勇壮なまとい振り

団員定数3,473名（平成23年4月1日現在）で構成し、平成22年度からは、各方面隊に所属していた女性消防団員が一本化され、各種行事や防火・救急指導などで活躍しています。

当市は東北一の広大な市域を管轄とする故、消防署などから遠隔となる地域が多く、常備消防車両の現場到着に時間を要する事案が少なからずあります。そんな現状において、鶴岡市消防団は、有事の際はいち早く駆付け災害活動に従事する地域防災の要となり、消火活動・風水害の防除などに充っています。

また、社会環境の変化などにより当消防団においても団員のサラリーマン化は避けられず8割強に達することから、特に遠隔地における消防団の消火・救助・避難誘導等の活動支援を目

的として、平成21年4月1日に「消防団活動協力員制度」を立ち上げ、現在、団員OBの中から512名の登録をいただき、常日頃から災害に備え、消防団と自主防災組織の連携に大きく貢献しております。

3 安全装備品等助成事業の活用

当市の消防団における公務災害は訓練時の受傷を含め年に複数件の事案が発生する状況にあり、公務災害ゼロに向け、ソフト・ハードの両面において対策を講ずる必要を感じてきました。特にハード面に関する装備の充実については長引く不況により財政状況が厳しいなか、少しずつ更新・配備を繰り返し災害用個人装備として、防火帽・防火衣・鉄板入作業長靴を配備



強化手袋

していましたが、手袋に関しては個人持ちの軍手や皮手袋を着用し活動に従事してきました。幸い公務災害となるような重大な怪我は発生していませんが、特に火勢鎮圧後の残火処理などの活動においては、ガラス片・トタン板・釘などに接触する機会が多く、濡れて切り裂きに弱くなった手袋を装着しての作業では非常に不安を感じ、何か対策を講じなければ、と危惧していたところ、消防基金の消防団員安全装備品等助成事業を知り、是非活用したいと思い事業申請し、幸いにも助成の交付をいただくことができました。3,000名以上の全団員に一括配備するには至りませんでした。780双の強化手袋を購入することができ、消防団指揮車、各方面隊の支援車両に常時多数積載し、災害出動に際し

ては活動内容に応じて配布、活用しています。今後は各活動班へ必要数を常備できるよう、配備計画をしているところです。

この度、助成を受け購入した強化手袋は熱に強く、切れにくい安全性に富んだもので、柔軟性があり作業も効率良くこなせます。また、袖口部分が長く手首への受傷も防げる高性能な物で着用する団員の方々にも評価が高く、安全管理上、欠くことのできない装備となりました。

4 消防団活動と公務災害ゼロに向けて

3月11日の東日本大震災により、甚大な被害を受けられ被災された皆様には、心よりお見舞いを申し上げますとともに、消防団員をはじめ亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げま



強化手袋装着

す。

当鶴岡市におきましては、幸いにも大地震による被害は無かったものの、梅雨の時期以降、突然のゲリラ豪雨により局地的な被害が同時多発的に発生しています。

防災に対する市民の関心が今まで以上に高まっているなか、消防団の必要性も再認識されており、極めて危険度の高い災害現場で安全性を高め、公務災害ゼロを目指し地域防災の要・守り手として活動していきます。



消防車両に配備